

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム大曲はなぞの 1号館
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	秋田県大仙市
記入者名 （管理者）	山内 幸
記入日	平成21年11月20日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>高齢になっても認知症になっても、人として尊ばれ、馴染み深い地域環境の中で自分らしく生活できる理念を作っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミーティング、月1回のケアカンファレンス、また問題解決の拠り所として、理念を共有し、活用している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの行事、イベントに家族や地域の人々に呼びかけ、また、地域の行事、催し物にも参加し、相互理解を深めている。運営推進会議でもこの点をアピールするようにしている。</p>	<p>ホームの存在がかなり地域の中に浸透してきており、今後も地域・家族とのつながりを大切にし、利用者の生活の活力になるよう取り組んでいきたい。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの職員は近隣の人々への挨拶を大切に、行事やイベントの折には親しく会話するなど、良い関係が出来ている。散歩中の人の中庭で休んだり、利用者に声をかけてくれる。野菜売りの方がホームの行事に参加したり、輪が広がっている。</p>	

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として、町内から認められている。町内の自治会からは行事のたびに参加の呼びかけを頂いており、積極的に参加し、交流を深めている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献できれば良いと思うが、具体的な取り組みはない。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、客観性のある意見を尊重し、ホームの質の向上に活かすようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議にホームの生活状況を報告し、職員も勤務上の感想を述べる等して出席者から取り組みについての意見や評価をいただいて、運営の参考にしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型事業所として、市町村との関係は重要と考えており、助言・指導を頂いて運営に活かしていく。		

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は職員が1名研修を受けた。今後も交互に受講の機会を得ていきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、行動制限マニュアルを作成するとともに、行動・言動上の虐待禁止の徹底を図っている。		
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に一方的な説明に終わらないように留意して説明し、同意を得ている。特に介護への希望を聞くことにより、家族の不安解消に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者と家族的な関係を保ち、頼みごとや不安・要望を話せる雰囲気作りをしている。悩み相談室を設けたり、御意見箱を設置している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時はもとより、毎月の請求書に添えて介護日誌、担当者コメント、広報『はなぞの日和』、管理者のメッセージでホーム内の様子を伝えている。		毎日の健康生活記録、2週間分を家族宛に送っているが、殆どの家族が熱心に読まれているので、引続き相互理解を得る為にも継続したい。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者苦情委員会を設けており、入居契約時にその所在を説明している他、運営推進会議の席でも出席の家族の意見、要望等を聞き、他、面会時にも同じ様にしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議席で運営に関して気付いた点、改善点などの意見交換をしている。年末には職員は1年を振り返りと新年への抱負、運営への要望を事業主に提出している。		意見や提案を積極的に発信し、発想できる職員作りを取り組んでいきたい
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は個々の生活事情によりシフト希望を出すことにより、比較的スムーズに勤務はなされている。また、利用者の状況変化への対応は、職員間の柔軟な調整で対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接しあう1・2号館の間の異動は、職員のマンネリ化、また介護体験の中を広げる意味で必要な場合もあり、常にイベントや行事で互いに協力作業を行いながら面識を深め、利用者とも触れ合っていることにより、ダメージは最小限に抑えられている。		
5.人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、研修に参加できるようにしている。		

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県、地域グループホーム連絡会等開催の交流、勉強会、相互交換研修に参加し、学びあっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>1時間の休憩時間は自由行動を認めており、職員相互の交流、情報交換等に活用している。運営者は職員の心身の健康に配慮している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のここの貢献度を理解し、評価している。職員は年に1度、運営者に対して自己アピールの機会がある。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人及家族、担当ケアマネから話を聞き、何を望んでいるのか受け止めるように努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを真摯に受け止めるように努めている。</p>		

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が何を求めてホームに入居を希望するに至ったかをよく聞き、支援に活かしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの生活に馴染むまでの時間を、管理者も職員も見守り、徐々に自分の生活を築いていけるように支援している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの共同生活者という視点からお互いに教え、学び、支えあう家族的な人間関係作りを目指し、実践している。</p>		<p>毎月発送する健康生活日誌、担当者のコメント、写真広報は、家族から喜ばれており、今後も続けたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が安心出来るように、ホームの生活の様子を知らせる工夫をしている。利用者と家族の絆を保つ配慮も大切にしている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ホームで生活するようになってから本人と家族の関係が回復し、穏やかな会話が生まれるようになったり、ホームの行事と一緒に参加し、家族の絆が保たれる等の役割を果たしている。</p>		

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、友人が自由に面会に来たり、外出することにより、関係が継続されている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>個々の性格や気持ち、認知症症状等を把握して、囑託やお茶の席、作業の方法を考えている。レクリエーションを通して利用者同士の和が生じるように支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ホームで看取った方の家族は、その後も時々訪問してくださり、職員・利用者との交流を続けており、今後も家族OBとして運営推進会議への参加を希望している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の要望はきちんと伺い、解決できるように申し送りもできている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者の生活歴を知り、懐かしかったころを思い出すような係わりをしている。その中からできることを見つけたりしている。</p>		

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様個々の性格や症状にあわせた働きかけや対応が行われている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスのとき、自分の担当者のニーズや課題をだしあい、介護計画へのヒントとなるようにしている。		小さなことでも変化に気づいた点を記録する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しのほか、変化による見直しを行い、原状に即した介護計画に基づいたケアが出来るよう、家族の意見と同意を求めながら作成している。		入居者様に変化があったときは職員間で話し合い、家族に連絡して話し合うようにしている。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後・夜間の各々の生活の様子を個別に記録しており、記録を元に介護計画の見直しに役立てている。		入居者の発した言葉やケアの気づきを具体的に記録し、職員間で情報を共有している。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の要望、職員の発想等で近所の公園や、遠足をかねてのドライブ等、自然に親しむ機会が臨機応変に行われており、グループホームのよさが発揮されていると思われる。</p>	
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>	<p>町内会に属し、その行事に入居者も参加している。歌や踊りの演奏会など、近所の人たちと一緒に聞くなど幅広い交流がある。かかりつけ医の協力で、インフルエンザ予防接種をしている。</p>	<p>外出困難な方はボランティアによる歌や踊りの提供や、年祝い行事でホームに訪問がある。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他のサービスを利用するためへの支援は行っていないが、その必要のある場合は柔軟に対応していきたい。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>他の居宅事業所と同様の利用者の紹介があったり、ケアマネ通信配布をして頂く。利用者のことで悩みの相談先として認識している。</p>	
43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人のかかりつけ医の受診を継続して受けようとしている。</p>	<p>かかりつけ医となじみになっているので、これからも継続していきたい。</p>

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医のほか、老人医療に詳しい内科医と連携し、随時指導や助言を頂いている。		信頼関係を築きながら、相談に応じてもらっている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が健康管理や医療的な支援を行っている。		看護職員が入居者の普段の状態や個別への状況をよく知っている。他職員への申し送りができている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人のストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら医療機関に本人の情報提供をしている。		スムーズな退院になるように、医療機関からのサマリーに基づき、本人、家族と話し合い、必要な支援をしている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や家族の意向を確認しながら対応を図る。		体調の変化など、毎日観察する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心と安全を確保し、対応が可能なこと、困難なことなどを全員で話し合い、家族とかかりつけ医の連携を図る		顔色、体調の変化など、毎日観察する。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居中の生活状況を詳しく説明し、スムーズな移動がなされるように配慮している。		これまでのホームでの状況、習慣等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続に配慮してもらえるように働きかける。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人を名前と呼んでいる。家族の一員と考え、名前を尊重している。		職員はプライバシーの確保について常に具体的に確認しあっている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人がどんな気持ちであるかを感じ、不安な気持ちや感情に共感するような声かけや係わりをしている。		表情や反応を注意深く観察し、一人一人の希望を把握するようにしている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムや、その日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。		ホームの都合に入居者を合わせるのではなく、職員が入居者に合わせるようにしている。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みや要望に応じて、身だしなみやおしゃれの支援をしている。	各々に合ったヘアスタイルに職員がカットし、喜ばれている。美容室を利用したい人には希望の店まで送迎の支援をしている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	麺類、ご飯類の要望はあるが、台所に立って調理をする人はいないので、配膳、下膳、片付けなどをしてもらっている。	本人の食べたいものを聞き、調理法を教えてもらい、一緒に作るということを共有したい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつに洋菓子の時はコーヒー、和菓子のときはお茶などを出している。牛乳と乳酸菌飲料は交互に出している。	いつものお茶、牛乳のほかに、昆布茶やコーヒー牛乳を出すことで、自宅で飲んでいた懐かしい味だと喜んでもらっている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	高齢による自然な尿漏れでオムツ使用の方が多いので、随時越えがけをしたり、長時間座りっぱなしの内容促すなど、さりげなくトイレでの排泄を促すよう努めている。	トイレにパットを置き、誘導回数を目安として記録も記入している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴予定表を参考にし、週3回の入浴をバイタルチェックや本人の希望（明日は外出だから等）にあわせている。	いろいろな種類の入浴剤を入れ、温泉に行った気分になってもらっている。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休憩と運動のバランスを考えながら、安心して安眠できるように本人の生活リズムの調整を把握している。		日中はできるだけ目的を持って臥床を行うように工夫する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々自分の時間の使い方ができている。食事の時間が近づくと、ホールに来て配膳の手伝いをしてくれる。		配膳、下膳、片付けの手伝いは、自然と係りが決まっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布の中にお小遣いをもっている人には、残高を確かめながら買物をしてもらっている。		自分に必要なものの買物は、楽しみのひとつとなっている。自分で所持出来る事で安心している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の出入は自由で、天気の良い日は散歩する人もいる。天気の良い暖かい日は、外でオヤツにしている。		天気の良い日はパーゴラに出てお茶を飲んだりしている。外出困難な人は窓を顔を出し、一緒に過ごすようにしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思いに添って、できる範囲内で支援をしている。		自宅への帰宅は支援しているが、特別な場所(墓参り等)へは家族が対応してくれている。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい人にはいつでも開放している。外部との交流を支援していく。		取次ぎだけでなく、電話を使用することを個別に支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等の訪問は、時間を問わず歓迎している。		職員が対応し、お茶の用意等をしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りケアを重視し、身体拘束しないことを申し合わせている。		玄関にセンサーを付けており、人の出入りが分かるようにしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関は夜間を除き開放している。入居者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけないように努めている。		入居者の行動やサインを察知し、さりげなく常に見守っている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や様子を把握するようにしている。夜間は一人になるため、入居者の状況を確認しやすい位置にいるようにしている。		常に数や残量を確認している。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬品等は入居者の手の届かない決まったところに置いている。		ヒヤリ・ハットの報告や、危険への気付きを収集し、事故防止に活かしている。総合警備保障との連携による体制を確保している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回、消防署の立会で避難訓練をしたり、ホーム内で火災を想定し、担架を使った練習をしている。		急変マニュアルは事務室においてあり、常に目を通せるようになっている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変マニュアルを作成している。職員は普通救命講習を修了している。		緊急時連絡網を作成し、近所の方へ協力をお願いしている。消防署への電話の対応も練習している。総合警備保障との連携による体制を確保している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会で避難訓練をして指示や指導をしてもらっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人にまだリスクはおこっていない。		リスクが予測された場合は、家族と率直に話し合うようにしたい。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>認知症の症状に、いつもと違う行動が見られたとき、観察用シートを作成し、医師の助言やシーティングによりケア方法を統一したりして、症状が落ち着くまで継続している。</p>	<p>体調の変化や異変に気付いたら、報告し合い、早期対応に結び付けている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>病歴服薬のシートを作り把握している。毎月のカンファレンスでも確認する。身体状況により服薬変更が発生した場合、申し送り、報告で確認している。</p>	<p>服薬確認を記録に記入している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表により、便秘状態を把握し、常に水分補給することと、野菜を多く取り入れた献立の工夫をしている。</p>	<p>ここの便秘の原因を探り、なるべく自然排便を促すようにしている。3日排便がない場合は、下剤を服用している。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後の入歯洗浄うがい、就寝前に入歯洗浄剤に入れることが日課となっている。</p>	<p>年1回、歯科医より定期健診をしてもらっている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリーの過不足や栄養が偏らないように調理の工夫をしている。 水分は一日の摂取量記録している。</p>	<p>月1回体重測定をして、前月との増減を比べている。栄養士より献立をみてもらい、指示、指導をもらっている。</p>

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレ後の手洗いはペーパータオルを使う。ノロウイルス対策として、塩素剤を洗剤として手摺や椅子、ドアの取っ手等を毎日清拭する。職員の手洗いとうがいの励行。		感染症予防のポスターやチラシを玄関、台所、洗面台などに貼っている。感染症の講習にも職員が参加するようにしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎朝の布巾の消毒、三度の食事後のオシボリの消毒、一日1回の台所の掃除をしている。食材は毎日買物に行き、生ものは1日で食べきるようにしている。		常に清潔・衛生を保つようにしている。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放されており、町内の方が野菜などを届けてくださる事もある。家族も時々気軽に立ち寄ってくれる。		玄関先に花を置いたり、玄関に壁掛けを下げたり、人形を並べたりしている。時々来る家族の方に感想や意見を聞いている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が伝わるような絵や手ぬぐいを季節ごとに飾ったり、パッチワークや入居者の作品を飾り、生活感や季節感を取り入れている。		共有の空間は安らぎ、心地よく自室の延長として過ごせるようにしている。全て二重サッシにし、カーテンとレースのカーテンにして不快に音や匂い、光がないようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋にくつろげる椅子を置いている。廊下、ホールにも長いすやソファを置き、2~3人で世間話をしている様子がみられる。		廊下に長いす、ホールにソファを置くことで、機の合った入居者同士で思い思いに過ごせる居場所になっている。

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう、プライバシーを大切に している。		個室は個々に本人の使い慣れた家具を置いてい る。家族は家にあつたものをもってきてくれる。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	一人一人の状態や反応をみながら、自然環境に近 い換気・空調の管理をしている。		時間を決めて個室の換気扇を回している。個室に 室温時計を置き、記録し、温度調整をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	シルバーカー・杖使用者がいるので、転倒防止や ふらつきなどに注意している。		シルバーカー、シャワーチェア、滑り止めマッ ト、車椅子対応洗面台など
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	認識間違いや判断ミスを起こさないようにしてい る。		不安や混乱、失敗を招くような物品について検討 する。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	1・2号館の間に花壇や畑、パーゴラ、駐車場が あり、散歩コースになっている。		パーゴラに椅子を置き、花や畑を眺めながらお しゃべりをしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム大曲はなぞの(1号館)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

中庭に造られたパーゴラは、1・2号館共有の憩いの場であり、近所の人にも利用される。

ホーム後方が全国花火大会の会場で、利用者、家族、地域に開放し、楽しんでもらっている。